

第47回公文書研究会・第101回古文書研究会 合同研究会を下記のとおり開催しますので、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

第47回公文書研究会・第101回古文書研究会 合同研究会

- と き 平成27年1月12日（月） 午後2時00分～4時00分
- ところ 大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室
大阪駅前第2ビル5階（北区梅田1-2-2-500）
地下鉄御堂筋線梅田駅・四つ橋線西梅田駅・谷町線東梅田駅、阪急電鉄梅田駅、阪神電鉄梅田駅より徒歩5分。
- テーマ 「今を未来に伝えるために ー地域資料を守るとは？ー
東日本大震災における文化財レスキュー活動の経験から」
- 報告者 林 貴史氏（元白岡市職員、元全史料協 震災委員）
- 内 容 東日本大震災における市町村役場の被災状況調査や岩手県釜石市・陸前高田市の行政文書の救助・復旧活動など参加した活動の概要を報告し、これらの活動への参加を通して感じた「地域資料を守る」ということへの様々な疑問を提示することによって、参加者とともに資料保存活動について考える機会としたい。

なお、共催の研究会でもありますので、研究会終了後の交流会を開催したいと思います。皆さんの集まれる場として、全史料協近畿部会全体の拡大交流会としたいと思います。それぞれ「全史料協にひと言」か「最近のマイブーム」、「私のオススメ鍋メニュー」又は「私の一品簡単レシピ」のうちいずれか一つ1分間スピーチをお願いします。交流会だけの参加もOKです。

ご参加・お問い合わせ等の連絡先は090(8792)9475(島津)もしくは090(8762)8369(金原)まで

公文書研究会報告

日 時：平成26年11月14日(金) 13:30～16:00

場 所：滋賀県庁新館大会議室、県政史料室

参加者：8名

公文書研究会は、滋賀県県政史料室（以下、県政史料室）との共催で、講演「地方自治の黎明－明治期滋賀の町村のかたち－」と、県政史料室の展示等の見学を行いました。

講演については、共催である滋賀県県政史料室様の企画で、平成25年3月には県指定有形文化財にも指定されている滋賀県の歴史的公文書について広く知っていただくため、「歴史的文書を考える」をテーマにシリーズで開催されているものです。7回目を迎える今回は、「地方自治」をテーマに、明治黎明期の滋賀県および県内の行政にスポットをあて、京都橘大学教授である高久嶺之介氏にお話しいただきました。ちなみにこの講演会は、県民向けに周知案内しているほか、県職員向けの研修講座も兼ねています。

講師の高久氏は、滋賀県内の自治体史編纂に数多くかかわっており（八日市市史、五個荘町史、能登川町史（以上、現東近江市）、秦荘町史（現愛知郡愛荘町）、彦根市史、蒲生郡日野町史、近江八幡市史）、編纂の際には、県政史料室保管の県庁文書を多数利用している、いわば歴史的公文書のヘビーユーザーです。この編纂の経験をもとに、明治22年の町村制施行までの滋賀県内の動向を、詳しくお話しいただきました。

ご自身は「県内の偏った地域（自治体史編纂に関わった市町が、湖東方面と呼ばれる滋賀県東南部が大半）の史料しか見ていないので」と謙遜されましたが、明治期を説明する前段として近世近江における村落の特徴、明治前期の地方行政の変遷、滋賀県令の行政事績、明治12年以降の町村における意思決定のシステム、そのほか小学校等の設立変遷など、詳細な資料をもとにお話しいただきました。

講演会終了後は、県政史料室で開催されている企画展示「初代県令松田道之と地方自治」を、同室職員の方より展示資料個別に解説いただきながら見学いたしました。その後、県政史料室様よりご配慮いただき、講師である高久氏と意見交換の場を設けていただきました。

開催のご案内が直前になり、参加者数が少なく、会員の皆様には深くお詫び申し上げる次第ですが、大変中身の濃い研究会となりました。

（担当運営委員 烏野茂治）